

地方公共団体における人権教育事業の実施状況に関する調査研究
事例調査票

様式2

(財)人権教育啓発推進センター

実施自治体・担当課（連絡先）	福岡市教育委員会生涯学習部生涯学習課 電話： 092-711-4655
----------------	--

1. 概要

事業名	福岡市PTA協議会障がい児教育啓発研修会
主催(共催)	福岡市教育委員会、福岡市PTA協議会
実施年月日・実績等 *回数・参加人数・作成部数等	実施年月日:2005年10月8日(金) 1回 参加人数780名
開催場所	福岡市立少年科学文化会館ホール
対象	PTA役員・委員及び会員
人権課題	障がい者問題

2. 事業内容

(1)事業の目的 障がいのある児童生徒の自立に向ける取り組みや、それを取り巻く社会環境についての研修をとおして障がい児及び障がい児教育への理解・啓発をはかり、家庭と学校・地域との連携を深める。

(2)事業概要

講演会 1 岩元 昭雄氏 講演 「どの子にも拓く育ちの可能性」 言葉を身につけることが難しいといわれるダウン症の子が、言葉を獲得していくポイントはどこにあるのか。それはまた、障がいの有無に関係なく、どの子にも秘められた可能性を拓く基本にもつながる事ではないだろうか。そういったことの体験を交えながら共に考える。 2 岩元 綾氏 講演 「みんな同じ人間 同じ命」～命の重さにかわりはない～ 自らの体験から、障がいのあるなしに関わらず、自分の可能性を信じ、夢を持ち、社会に参加していくことの大事さを語る。また、出生前診断の問題も提起し、自分の考えを訴える。自分が英語に翻訳した絵本を読み聞かせしたり、4月にダウン症会議で行った英語のスピーチの一部も披露する。

(2)-1 連携状況 福岡市PTA協議会の一組織である福岡市立養護学校PTA連合会が企画運営

(2)-2 特色・工夫した点(広報の方法も含む) 広報は各単位PTA(220校)に文書配布し、各学校2～3名参加要請

(3)参加者の反応・事業の反響等 講演会終了後、アンケートを実施し、障がい児及び障がい児教育への理解を深めることができ、好評であったという回答が寄せられた。 アンケート結果 ・子どもの力を信じ、愛し、受け入れること、励ますこと、サポートすること、親としてしなければならないことがたくさんあると思いました。 ・障がい児に光を！から、障がい児から光を！ですね。 ・お父様の気負いすぎないが、子どもから目を離さず常に「ありのままの姿」を見つめ、今の状態に何が必要かを冷静に考えていく姿に敬服しました。 ・我が家にもダウン症の子がいて今日は涙が出てきました。生まれてくれたことに感謝しています。 ・現実には差別、偏見、無理解、たてまえ・・・学校でも社会でも本当に胸が痛む毎日ですが、皆で考え、行動し、少しでも良くなって行くことを願います。 ・今後もこの研修会を続けて頂き、保護者に広げていけたらと考えています。

(3)-1 反省点・今後の課題 会場が市の無料施設で実施しているため、参加人数を制限していることが課題である。
--